



愛知県保護者会たより

第2回東海三県保護者会合同キャンパス見学会開催

文責・写真 会長 深見 和義

会員の皆様、冷え込む季節となりましたがいかがお過ごしでしょうか？

今回、愛知、三重、岐阜県保護者会合同で10月29日（土）に東京・世田谷キャンパスにおいて「第2回東海三県保護者会合同キャンパス見学会」を開催しました。



校友課 北川 浩様

当日は10時30分より受付を開始し、その後教育研究棟5Fの2503大会議室において、私と三重県保護者会の加藤勝也会長、岐阜県保護者会の九野毅会長の挨拶で開会しました。その後、保護者会本部事務局の北川浩様の案内でキャンパス内の見学ツアーが始まりました。

最初に教育研究棟の各フロアの教室の説明、そして学生支援センター内の案内、図書館の見学や、至る所にある銅像の説明を受けました。特にスポーツ関連の蔵書日本一という図書館は見応えがありました。

その後校舎の外に出て、復元された「日本體育會體操學校正門」を通り、東京ドームと同じ人工芝を採用しているグラウンドに入りました。次にスポーツ棟に移り、柔道、剣道、少林寺拳法、相撲部などの武道のクラブが使用している小体育館を見学しました。当日、メインアリーナではバレーボールのリーグ戦が行われており、少し観戦もさせていただきました。



図書館の見学



日本体育會體操學校正門（復元）の見学



剣道部の見学

保護者会の見学会でなければ見ることができない隅々まで案内していただき、1時間20分ほどのキャンパス内のツアーを終えました。

昼食は学生食堂にて、保護者会より500円を支給し、各自好きなものを選んでいただきました。私は唐揚げ丼と、うどんを注文しましたが意外とボリュームがあり、欲張りすぎて完食するのが苦しかったです。

昼食及び休憩後は、校友課の大山 茂課長（学生支援センターキャリア支援部門事務長）より就職対策に関する講演と、体育学部社会体育学科の青柳 徹准教授より自身の競技歴と指導者としての指導法の講演をいただきました。



グラウンドの見学



校友課 大山 茂課長

共にプロジェクターを使って分かり易くお話していただき、保護者一同興味をもって聞くことができました。

講演終了後に、グラウンドに降りる階段にて記念撮影をしてキャンパス見学会を閉会しました。また、参加記念品として「エッサッサ君ストラップ」を参加者全員に進呈いたしました。

今回の見学会は愛知県13名、三重県5名、岐阜県6名の24名で前回の半分ほどの参加者でしたが、再来年は健志台キャンパスとなりますので多く会員の皆様の参加をお待ちしています。



エッサッサ君ストラップ



「体育学部社会体育学科 青柳 徹准教授の講演概要」

筆頭副会長 石井 勝

今回は社会体育学科の青柳（あおやなぎ）准教授にお話しをいただきました。ご自身の競技経験だけではなく自らの人生観を加え指導者として競技向上と人格形成を合わせ学生達と向き合っておられます。お忙しい中、講演をしていただきありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（以下 青柳准教授）

私は現在、社会体育学科の教員でありまして専門はスケート、研究室は氷上スケート研究室です。大学内では野外系の講義を多く持っております。

フィギュアスケートは名古屋を中心に西日本の選手が大活躍していますが、スピードスケート、アイスホッケーはほとんどが北海道の選手となっています。スピードスケートの部員は現在 80 名を超えていて、他にインラインホッケーの顧問もしています。



体育学部社会体育学科 青柳徹 准教授

大学の役割としては社会的貢献、研究活動、そして一番中心になる学生に対する教育となっていますが、日体大においては教育のみならず運動部においては競技力の向上が必須です。私自身も 10 年以上教員をしておりますが、大学スポーツのあるべき姿についてどうあるべきか？について未だに断言ができる所に至っていません。

コーチの役割として、選手の主観をいかにして客観的なデータとして選手たちに渡すこと、また動作や心や身体を理論的な背景を知っていることが必要です。選手も 10 人いれば 10 通りの指導法がありますので、必ずしも記録や順位などすぐに見えた結果として成果が表れるとは限りませんが、その学生の人生において後々、大学でやってきた競技が生きてくる。これも

一つの成果だと捉えても良いのではと思います。

私が大切にしている所は「本人に気付かせ、本人が実践すること」です。どんな練習でも“やらされている”と頭の中で思ってしまうと、心の中でブレーキが掛かってしまいます。自分達が気付いた事でできるようになったという瞬間を一緒に共有して褒めてあげるタイミングが必要ですので、主体的に取り組めるのか？が一番のポイントとなってきます。

私は北海道の釧路で生まれました。当時私が子供の頃市内でスケート競技者として 1000 人ほどの小学生がおり、スピードスケートはメジャーなスポーツでした。今はスポーツの多様化や少子化などで、スケートのメッカと言われている釧路市でも競技者としての小学生が 10 数人だそうです。このような状況でどのようにトップ選手を導いていくのかは非常にスケート界にとっては厳しい現実が続いています。

私が小学校の頃所属していた野球部の顧問の先生から言われた一言に、私の指導者としての原点があります。それは「こんなこともできないのか？」と言われたことです。「こんなこともできない」のではなく、「先生こそ、そんなことも教えられないの？」とのちに思ったのです。



日体大に入学して1年生の時に初めてオリンピックに出場しました。この時期がスケート人生の中で一番集中できた時でした。その時に得た経験は貴重な体験だったと思いますが、この感覚的な部分をいかに言語として伝えることができるのか？が今自分にとって大事な作業となっています。またその部分は教科書では絶対に教えてくれない内容ですので、それが今生きていると思っています。

卒業して社会人となり、選手での現役生活の最後が、8位入賞した1989年の長野オリンピック出場でした。このときは既に選手としての限界は超えていました。その後、指導者としての知識を得るために大学院に進みオランダに2年間コーチ留学をしました。2003年から本格的な指導者を始めましたが、このときは日本オリンピック委員会の専任コーチとしてオリンピック代表コーチを務めていました。

そんな中、縁があって母校の日体大に戻ることができ、現在も大学教員とコーチを両方兼任しております。

大学院の中で、理論と実践について学びましたが、私自身はまず実践があり、気付いたことやはっきりさせたいことの理論的な背景を深めていくという作業の順番が大事だと考えています。

日体大での教員生活の中で、自分が本当にやりたい指導はどこなのか？誰と向き合うべきなのか？を考えるようになりました。その中で、トップまであとちょっとの選手を何とかしたいとの思いが強くなり、大学の方に選任する形となりました。

私自身の競技スポーツから得た人生哲学として、誰に何を言われても貫き通すことも厭わない厳重なルールを自分の中に持つことが大切だと思います。また、何か行動を起こすときは深く考え、そのタイミングがきたら即動けるようにしておくことが必要だと思いますし、指導者としてもそこは考えていかななくてはいけない部分だと思います。

コーチングとは何か？と聞かれると、私は「観察と忍耐」と何時でも答えておりますが、まさにそれに尽きると思っています。また、学生に変化を求めるときは、自分も変わっていかなければならないとも日頃から思っています。



講演の聴く保護者の皆様



講演の様子

以上が、青柳准教授の講演の概要です。オリンピック出場経験者のお話を聞ける機会は滅多にありませんので、とても参考になりました。また、講演後の質疑では私自ら質問をさせていただきましたが、丁寧にお答えして下さりありがとうございました。



「東海三県保護者会合同キャンパス見学会に参加して」

2年保護者 吉田 浩司

静寂な住宅街にある世田谷キャンパスは、高層の教育研究棟とスポーツ棟そして人工芝のグラウンドからなる素晴らしい施設でした。教育研究棟においては、教室、図書館、学生支援センターなどの説明を受け、スポーツ棟においては相撲、柔道、剣道、バレー、バスケット、トレーニングセンターなど競技の施設について説明を受けました。この時期は試合が多く遠征にでかける部が多かったですが、学生の練習姿を見てみると、どの部を見ても爽やかな学生達ばかりで清々しい気持ちにさせてくれました。

学食にて各自食券を購入して昼食をとり、午後からは、学生支援センターの職員より教員を目指す学生の就職状況及び一般企業へ就職する学生の就職率等就職状況をお話いただきました。一般企業が学生に求めている資質や大学の就職支援体制の説明があり、保護者の方々も参考になる情報であったと思います。

体育学部社会体育学科 青柳准教授の講演は、スピードスケートのオリンピックそして一流アスリートの指導者としての経験を通して、自分自身の生き方や他人の指導の仕方をお話して頂き、大変興味深い講演でした。

今回初めてキャンパス見学会に参加しましたが、とても有意義なひと時を過ごさせていただきました。次回のキャンパス見学会は健志台ということですので、これもぜひ参加させていただきたいと思います。

最後に保護者会役員の皆様、ご苦労様でした。

2年保護者 木村 典子

娘が児童スポーツ教育学部に在学、世田谷キャンパスで学生生活を送っております。

今回、教育棟内や部活で所属している新体操クラブが練習しているアリーナを見学して、昼食を食べている食堂で娘のおすすめの日替わりランチを美味しくいただきました。娘がこんなに整った環境で生活しているのだなあとと思い安心いたしました。

また、懇親会ではいろいろな方とお話して楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。



見学会閉会後の記念撮影

前列左から、愛知県 石井 勝筆頭副会長、岐阜県 九野 毅会長、

愛知県会長の深見和義、三重県 加藤勝也会長、愛知県 山岡洋海 2年生副会長



「見学会懇親会」

キャンパス見学会閉会後に、オプション企画として桜新町駅近くのレストランにて懇親会を開催しました。懇親会には、法人事務局上席専門職の尾関庸一様を招待し、11名の保護者が参加しました。

東京で懇親会を開催するのは初めての試みでしたが、他県の保護者の皆様との交流もでき有意義に食事を楽しむことができました。また、尾関様からも色々参考になるお話を聞かせていただきありがとうございました。



[懇親会にて](#)

編集後記

キャンパス見学会も参加の皆様のご協力により無事終えることができ、ありがとうございました。

保護者会たよりも年内にあと3回の発行が決まっていますので、HPへのアクセスをよろしくお願いいたします。
尚、次号は支部会長連絡協議会の報告を予定しています。

(会長 深見和義)